

令和8（2026）年度8月「歳時記」

はづき がつ こよみ うえ なのか りっしゅう むか あつ きび じ き
葉月8月、暦の上では、7日に立秋を迎えます。まだ暑さの厳しい時期です
が、あさゆう かぜ すこ あき けはい かん こう にち こくみん
が、朝夕の風にほんの少しだけ秋の気配が感じられる頃です。11日は国民の
祝日「山の日」です。山に親しみ、その恩恵に感謝する日として制定されまし
た。ほんちよう ゆた しぜん かこ やま めぐ ちいき こ
本町は豊かな自然に囲まれ、山の恵みとともに暮らす地域です。子どもた
ちには、みちか やま かわ ふ しぜん たいせつ まな よ きかい
身近な山や川に触れながら、自然の大切さを学ぶ良い機会となるでしょ
う。ただし、ねっちゅうしょう てんこう きゅうへん じゅうぶんちゅうい あんぜん かっとう ところ
熱中症や天候の急変には十分注意し、安全な活動を心がけて
ください。にち しよしよ あつ とうげ こ きせつ うつ いしき
23日の処暑には、暑さが峠を越えるとされ、季節の移ろいを意識す
る機会となります。きかい ちゅうがっこう げじゅん しぎょうしき むか
そして、中学校では下旬には始業式を迎えます。

8月^{がつ}は、平和^{へいわ}について考^{かんが}える月^{つき}でもあります。6日^{むいか}には、広島市^{ひろしまし}で「広島平和^{ひろしまへいわ}祈^き念^{ねん}式^{しき}典^{てん}」が行^{げんぱく}われま^{うしな}す。原爆^{おお}によって失^{いのち}われた多^いくの命^{いのち}を悼^{いた}み、平和^{へいわ}への誓^{ちか}い^{ちか}を新^{あらた}たにする大^{たいせつ}切^{しきてん}な式^{しきてん}典^{てん}です。本^{ほん}町^{ちやう}では毎^{まい}年^{とし}15日^{にち}に、地^ち域^{いき}の歴^{れき}史^しを振^ふり返^{かえ}り平和^{へいわ}への思^{おも}いを共^{きやう}有^{ゆう}する「安^あ芸^き太^お田^{たちやう}町^{せん}戦^{ぼつ}没^{しや}者^{ついでう}追^あ悼^き・平^{へい}和^わ祈^き念^{ねん}式^{しき}典^{てん}」が開^{かい}催^{さい}されま^いす。町^{ちやう}ゆかりの戦^{せん}没^{ぼつ}者^{しや}を追^{ついでう}悼^{せんそう}し、戦^{せん}争^{そう}の悲^ひ惨^{さん}さを忘^{わす}れず、平^{へい}和^わを守^{まも}り続^{つづ}ける決^{けつ}意^いを新^{あらた}たにする場^ばです。平^{へい}和^わの尊^{とう}さを次^{つぎ}の世^せ代^{だい}へ伝^{つた}えることは私^{わたくし}たちの大^{おお}きな使^{しめい}命^{めい}です。学^{がく}校^{こう}でも平^{へい}和^わ学^{がく}習^{しゅう}を積^つみ重^{かさ}ねていま^{かてい}すが、ご家^{せん}庭^{そう}でも戦^{せん}争^{そう}や平^{へい}和^わについて話^{はな}し合^あう時^じ間^{かん}を持^もっていただ^{さいわ}ければ幸^{さいわ}い^{さいわ}です。

また、夏休みの学なつやす習がく支ゆう援しえんとして、町立図書館では「読書感想文セミナー」を
開催しています。本を読む楽しさを知り、感じたことを言葉にする力を育む
講座です。読書は想像力を広げ、他者への理解を深める大切な学びでもありま
す。小學生・中學生、そして高校生の皆さんにも、読書感想文に積極的しょうがくせい ちゅうがくせい こうこうせい みな どくしょかんそうぶん せっきよくてきにチ
ャレンジしてほしいと願います。

きび あつ なか きせつ かくじつ つぎ だんかい すす ぜんこくてき
 厳しい暑さの中でも、季節は確実に次の段階へ進んでいます。全国的にみると
 こくしょ び おお あつ なつ みな じあい
 酷暑日も多い暑い夏です。皆さん、どうぞご自愛ください。

こいしん
＜古文＞

こうし みち い たまう しち はちさい ふたり わらわ みち あい くじ と
孔子、道を行き給ふに、七、八歳ばかりの二人の童、道に値ひぬ。共子に問
い わ ひとり わらわ わ ひ はじ い す と き ひちか にちゅう いた
ひていはく、一人の童のいはく、「日の始めて出づる時は日近し。日中に至り
ては日遠し」と。一人の童のいはく、「日の始めて出づる時は日遠し。日中に
いた ひちか さき わらわ またかえ わ ひ い す と き あつ ゆ
至りては日近し」と。先の童、亦返していはく、「日の出づる時は熱くして、湯
をさぐ ご と にちゅう いた すず あと わらわ またかえ ひ
を探るが如し。日中に至りぬれば涼し」と。後の童、亦返していはく、「日の
で と き すず にちゅう いた あつ ゆ さぐ ご と あ ひ い す
出る時は涼し。日中に至りぬれば熱くして、湯を探るが如し。豈に、日の出づ

る時は近く、日中を遠しといはむや」と。此如く二人して争ひて、問ふといへども、孔子、裁り給ふ事能はず。

＜口語（現代語）訳＞

孔子が、道をお行きになると、七、八歳ばかりの二人の子どもに、道で出会った。孔子に尋ねて言うには、一人の子どもは、「日の出の時は太陽が近い。真昼になると太陽が遠くなる。」と言う。もう一人の子どもは、「日の出る時は太陽が遠い。真昼になると太陽は近くなる」と言う。先ほどの子どもが、また返答して言うには、「日の出るときは暑く、湯の中に手を入れたようだ。真昼になると涼しくなる」と。あとの子どもが、また返答して言うには、「日の出る時は涼しい。真昼になると暑くなって、湯の中に手を入れたようだ。どうして、日の出が近く、真昼が遠いなどと言うのだろうか（いや、そんなことはいえない）」と。このように二人で言い争って、問うたが、孔子は判断を下すことができなかった。

今月は、夏休みの自由研究を意識して、探求する子どもの会話を題材にした作品を選びました。出典である「今昔物語集」は、平安時代後期に成立した説話集で、インド・中国・日本のさまざまな説話を収めています。

孔子が道を歩いていると、七、八歳ほどの二人の子どもが「太陽は朝のほうか近いのか、それとも昼のほうか近いのか」をめぐって議論していました。互いに理由を挙げて議論を重ねますが、孔子もどちらが正しいか判断することができませんでした。

この説話は、子どもであっても筋道を立てて考える力を持つことや、学問の大家である孔子でさえ答えられない問いがあることを示し、人は常に謙虚に学び続ける姿勢が大切であることを教えています。

それでは練習問題です。皆さんぜひチャレンジしてみてください。

＜問題＞

問1 一人目の童は「日の始めて出づる時は日近し。日中に至りては日遠

し」と主張しています。そのように考えた理由を50字以内で説明しましょう。

問2 つぎ ほんぶん ないよう もっと てきせつ ひと えら きごう こと
次のうち、本文の内容として最も適切なものを一つ選んで、記号で答えましょう。

ア こうし ふたり わらわ あらそ き あさ たいよう ちか はんたん
孔子は二人の童の争いを聞き、朝のほう太陽は近いと判断した。

イ ふたり わらわ こと こんきょ しめ じぶん かんが しゅちょう
二人の童は、それぞれ異なる根拠を示して自分の考えを主張した。

ウ ふたり わらわ さいご たが かんが みと あ
二人の童は最後には互いの考えを認め合った。

エ こうし ふたり いまし あらそ
孔子は二人を戒め、争いをやめさせた。

問3 せつわ さいご こうし ことわ たまう ことあた わ
この説話で、最後に「孔子、裁り給ふ事能はず」とあることによつて、作者が伝えようとしていることとして最も適切なものを一つ選びましょう。

ア こうし がくもん さいのう
孔子には学問の才能がなかったこと。

イ こ ぎろん い み
子どもの議論には意味がないこと。

ウ すぐ じんぶつ はんたん もんだい がくもん けんきょ たいせつ
優れた人物であっても判断できない問題があり、学問には謙虚さが大切であること。

エ たいよう きょり だれ わ つた
太陽の距離は誰にも分からないということを伝えようとしていること。

<かいとうれい>
<解答例>

問1 ひ で あつ ゆ かん にっちゅう すず
日の出のころは熱くて湯をさわるように感じるが、日中は涼しいので、朝の方が太陽は近いと考えたから。

問2 イ 問3 ウ